

第2回蒲郡市総合教育会議 会議録

- 1 日 時 平成29年11月2日(木)
開会 午後1時30分 閉会 午後2時30分
- 2 会 場 蒲郡市役所5階庁議室
- 3 出席者 蒲郡市長 稲葉 正吉
蒲郡市教育委員会
委員長 高田 稔
委員長職務代理者 小田 裕慈
委員 石渡 篤史
教育長 廣中 達憲
(オブザーバー)
企画部長 大原 義文
総務部長 壁谷 勇司
教育委員会事務長兼庶務課長 尾崎 弘章
教育委員会生涯学習課長 大岡 雅道
(説明者)
教育委員会学校教育課長 岡田 敏宏
(事務局)
企画部次長兼企画政策課長 飯島 伸幸
企画政策課係長 小山 道徳
企画政策課主事 青木 佑紀

- 4 情報交換 (1) 新しい学校づくりの方向性について

5 次第

○開会

○稲葉市長あいさつ

○情報交換

(1) 新しい学校づくりの方向性について(情報交換)

(説明資料:新しい学校づくりの方向性について)

説明者より蒲郡市公共施設マネジメント実施計画と学校施設について、これからの学校と地域の関係について説明した。

【主な意見】

(市)

- ・公共施設マネジメントでは、例えば小中一貫校にしてはどうか、公民館を学校の近くに建てるなど、地元からも地域と学校を繋げるような意見が出てきている。教育委員会として教育の方向性を決めず、公共施設の観点から入っ

ていいのかということ懸念している。

- ・ 地区で議論の中心になる内容も異なっている。地区で議論する前に、学校の統廃合についても含めて、市の教育委員会として、市の教育のあるべき方向性を示すべきではないか。
- ・ 公共施設マネジメントで地区別のワークショップのあとに市の職員で行われる見直し検討委員会では、建物の機能というソフトの面も検討しているため、教育委員会と意見交換いただきながら進めていきたい。

(教育委員会)

- ・ 総合的な学習が教育課程に入り、子供たちが地域へ出て行っているいろいろな学習をするようになってきた。その延長で、もっと広く地域の中で学ぶという動きがあると感じている。
- ・ 地域と学校が相方向で学びあうような、中学校区を中心とした学校づくりが大切になってくる。
- ・ 教育課程のカリキュラムを学校と地域が一緒になって作り上げる部分が出てくる。そのため新しい学校づくり、地域づくりに係ってくる市の公共施設マネジメントはチャンスであり、そうした流れの中で新しい学校づくりを考えていくべき。
- ・ 今回、説明にあったことが蒲郡の教育の方向性であると考えている。公共施設マネジメントの市としての方向性を大事にしたい。統廃合や小中一貫ありきというのはどこの地区でも通用するものではない。それぞれの地域の特性をもったまちづくり、学校づくりがなされていくため、ワークショップを通じていろいろなご意見が出される中で、教育委員会としても、マネジメントの中で、教育について考えていくべきであると強く感じている。
- ・ 地区の特性に合わせて、小中一貫などの話が出てくるなら、それはそれでベストであると思う。
- ・ 教育委員会としては、市に施設のことよりも、子供が減って行く将来のことを考えてほしい。小中を統合したとしてその先、例えば地区の統合の可能性など、20年、30年先の将来を見据えて考えなければならない。
- ・ 教育委員会は子供のこと、どういう子供を育てるか、不登校など教育の現場の問題に取り組んでいる。教育の現場では様々な問題が起きており、公共施設マネジメントは早く進めてほしい。
- ・ 具体的に案やスケジュールを見せていかないとなかなか進まない。あくまでも教育委員会では子供を中心の考え方をしていきたい。
- ・ 市の職員で行われる見直し検討委員会のメンバーは重要であり、例えば教育のことなら先生などの有識者をいれなければ、形はできても中身が伴わず、動きが遅くなるのではないか。

○閉会